

【ご参考資料】

2015年2月3日

## 2月3日発表の豪州の政策金利引き下げについて

### 政策金利を2.50%から2.25%に引き下げ

豪州準備銀行(中央銀行)は2月3日の金融政策決定会合において、政策金利であるオフィシャル・キャッシュレートを0.25%引き下げ、年率2.25%とすることを決定しました。利下げは2013年8月以来で、過去最低の水準となります。

市場では多くが政策金利の据え置きを予想していました。ただし、世界経済の見通しが弱まる中、各国の中央銀行が金融緩和に動いていることから、一部では今回会合における利下げを予想する声もありました。

同中銀は声明において、今回の利下げにより国内景気を下支えする効果が期待できるとしています。

### 国内景気の下支えが目的

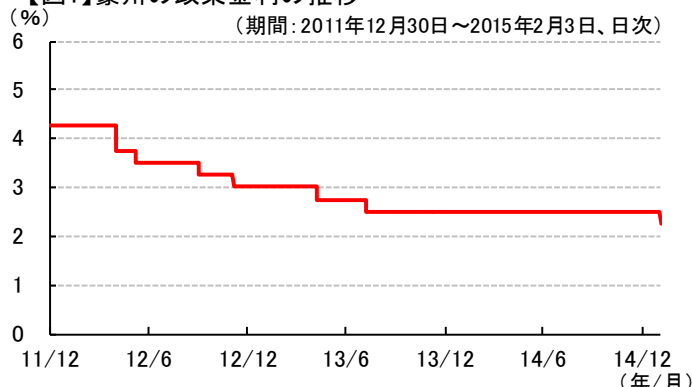
同中銀は今回の利下げの背景として、原油価格下落を背景としたインフレ率の低下、世界的に金融緩和的なスタンスが広がり金利が低下していることなどを挙げています。また、国内経済の弱さについても触れ、失業率のピークが以前の予想よりも高くなる見込みであることなどを指摘しています。

一方、豪ドルについては、対米ドルでは下落しているものの、ファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)から想定される水準は上回っていると評価しています。

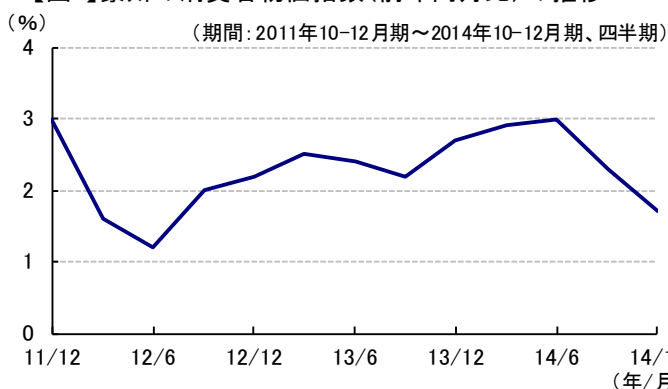
今回の決定を受け、2月3日の外国為替市場において、豪ドルは対米ドルで前日比1.8%、対円で同2.2%の豪ドル安になっています(日本時間14時頃)。

次回の金融政策決定会合は2015年3月3日に予定されています。

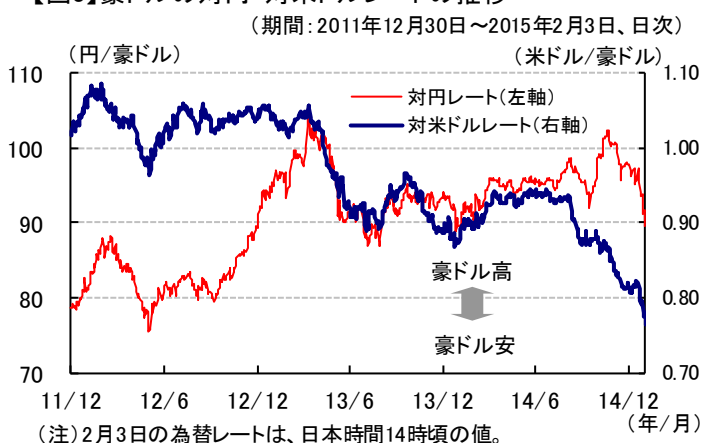
【図1】豪州の政策金利の推移



【図2】豪州の消費者物価指数(前年同月比)の推移



【図3】豪ドルの対円・対米ドルレートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成